

II-P 65 妊娠・産褥ラットにおける TNF- α 、PPAR- γ の mRNA 発現およびリパーゼ活性について

三重大学医学部産科婦人科学教室¹、白子クリニック²
川口 香¹、杉山 隆¹、菅谷亜弓¹、豊田長康¹

【目的】ラットでは母体の体脂肪量が妊娠末期に増加、産褥期に減少するが、これは母体が妊娠時に脂肪組織にエネルギーを貯蔵し、妊娠末期に放出するためと考えられる。その機序については明らかでなく、前回は adipocytokines の一種である TNF- α 、PPAR- γ の mRNA 量およびアポトーシスの関与について検討したが、今回はリパーゼの関連について調べた。【対象 方法】妊娠・産褥期の SD ラットの腹腔内脂肪を採取し LPL (lipoprotein lipase) 活性は測定キットにて、HSL (hormone sensitive lipase) 活性は脂肪組織の培養液中の遊離脂肪酸の量にて算定した。【結果】LPL 活性は妊娠 5、10、14 日に増加し、HSL 活性は妊娠 10 日から産褥 5 日にかけて増加した。【考察 結論】母体の体脂肪量の変化は LPL、HSL の増減による可能性が高いことが示唆された。